

# 東京バッハ合唱団 月報

[ 第 534 号 ] 2006 年 12 月号

〒156-0055 東京都世田谷区船橋 5-17-21-101 Tel : 03-3290-5731 Fax : 03-3290-5732  
E-mail : bachchortokyo@aol.com http : //www2.tky.3web.ne.jp/~bach/chor/

BACH-CHOR, TOKYO  
Monthly Newsletter No.534  
December 2006

5-17-21-101 Funabashi,  
Setagaya-ku, Tokyo

## 恒久的な東京バッハ合唱団を目指して

大村 恵美子

来年の 2007 年は、合唱団創立 45 周年で、この年をもって《マタイ受難曲》を最後に、有終の美をかざって合唱団の歴史を閉じよう、と決心したのが、1998 年でした。

前年 1997 年の第 4 回ドイツ演奏旅行を終え、団員も満ちたりた思いで、長い間、貴重な経験をありがとうございました、と言って退団する人も多く、何よりも、年 2 回の定期演奏会は赤字つづきで、団員の経済的負担も軽減の見込みはない、ということだったでしょう。

2000 年、「バッハ・カンタータ 50 曲選」刊行開始

そこで、私は、私の体力的限界を考えて、創立 45 周年（2007 年、76 歳）で活動をうち切る計画をたてました。それまでに、できるだけ思い残すことのないような曲目を演奏して、美しい形で終わろうと。

そのさい、私の心に引っかかったのは、「このままでは、訳詞の楽譜も、演奏の録音も世に知られないで、何も残らない」という、声でした。これまでの曲は、私たちが再演しなければ、2 度と聞けないのです。楽譜や CD を作れないものか。

間もなく終わろうとする合唱団にとっては、楽譜・CD の発行を始めるとなれば、その資金はどうなり、背負いこむ負債はどうなるのか、という現実の難題に、私はかなり躊躇しました。赤字が好転しないというのが、団員の去就の第一の問題であるのに、そのうえまた、これまでとは桁違いの事業を始めることになるのです。

心中での葛藤のすえ、私は、けっきょく出版債券というかたちで皆さんからの融資を得、私個人で責任をとることにして始めようと決心しました。そして、2007 年までに実現させ、結着させるために、カンタータを 50 曲に限定して自費出版を始め、その楽譜を用いての定期演奏会も平行して企画しました。

CD については、幸い 1980 年代以降の定期演奏会のデジタル音源が、元テノール団員の故・柳沢清氏のもとに保存されており、これに出版楽譜による新たな定演の会場ライブ録音も加えて、2003 年より刊行を始めました。実現にあたってこの CD 化計画の技術的な中心を担ってくださった柳沢氏は、第 1 期の発行を待たずに天に召されてしまわれたのですが、ちょうどこの時期に入団された、バス団員の片岡武彦氏が後を引き継いでくださり、制作面でも大いに工夫をしていただいて、おかげで、目標の 2007 年を待たずに、この 11 月、「50 曲選」の連続

演奏会と楽譜出版と CD 発行、それぞれ全行程が無事に完了したのです。

2007 年 3 月の《マタイ受難曲》に向かって躍進

ところで、「バッハ・カンタータ 50 曲選」の企画がスタートすると、キリスト教関係の新聞・雑誌や、音楽誌、朝日・読売・日経等の全国紙などにもしばしば取材されて、入団する人もふえてきました。2005 年になって《マタイ》参加者募集の呼びかけを始めると、その数は急激な増加となり、現在では 1 年前の倍をこえる勢いです。しかし、団会計、演奏会会計、後援会会計が、3 つともそろって黒字に転じたのは、やっと 2006 年後半になってからです。

この間、2002 年の団員総会では、多くの方の意見で、先の 2007 年終止符の件は取りやめとなり、主宰者の力がつづく限り現状で進もう、ということになりました。この年は、創立 40 周年にあたりましたが、5 月の定演に《口短調ミサ曲》をとり上げ、また創立 25 周年を記念する松山バッハ合唱団も、同じ 5 月に《口短調》をするので、東京から合唱 5 人と聴衆として 5 人のメンバーが松山にでかけました。そのときに、私は、東京バッハの初期から団員として歌い、その後、松山でバッハ合唱団をつくり、松山・東京をかけもちで続けてこられた橋本眞行氏に、今後、東京バッハの指揮も手伝っていただくことを依頼して、快諾を得たのです。

これで、団員の増加、それに伴う経済基盤の安定化、指揮者の補強、宣伝と社会的評価の浸透など、あらゆる面で、2007 年に終わらせる必要がなくなってきました。

カンタータ全曲の訳詞完成、全曲演奏と全楽譜出版へ

一方、まさか私の存命中に完成することはあるまいと思っていた、教会カンタータ全曲の訳詞原稿も、あっさり出来上がってしまったので、「50 曲選」が完了しても、今後つづく限り、全曲演奏への道が開けたのです。45 年間の演奏実績の上に、楽譜出版と CD 制作のノウハウが蓄積されました。これらを活かして、今後代を重ねながら、残されたバッハの教会カンタータ全曲の日本語訳詞つき楽譜の発行と、日本語演奏の録音をつくり続けていけたらと望んでいます。

残された課題は、わが家（＝事務局）に所せましと積み上げられている「50 曲選」の在庫の山と、思いのほか多くご応募くださった出版債券のうち、期限内に返済し

切れないうちに残っている相当の金額を抱えていることです。参考までに、これらは、完結した楽譜の全 50 曲 (50 冊) のセット、市販の定価で 69,300 円 ( 団内価格 66,000 円 ) を 200 セット出荷すれば、空間の半分と負債の全額がかたづく規模です。国内の音楽関係の教育機関などへの紹介につとめていこうと考えていますが、読者のみなさまも、カンタータ日本語演奏の普及に向け、PR に一役買っていたら幸いです。

バッハ・カンタータ全曲演奏、全楽譜発行という大きな目標がどさりと出現したわけですが、《マタイ》に向かって倍増した団員が、《マタイ》後も、私たちの壮大な計画の戦列に加わってくださり、日本のバッハ受容史上初めての規模の、普及の直接的な運動に、いっしょに乗り出してくださることを期待し、ここまでみごとに成し遂げられてきた種まき段階が、新しい 2007 年に、かつてない大輪の花を咲かせることを願って、年を送ります。

## 第 101 回定演 (2007 年 12 月) 以降の演奏曲目を選ぶ

田中 玲子 ( 団員 : アルト )

今回、2010 年までの長期計画をたてるにあたって、まず大村先生がさまざまな角度から候補の曲を提示され、それらの楽譜、演奏例 (CD) を選曲委員会のメンバーに貸していただきましたので、時間をかけて勉強し、先生の意図を具体的に知ることもできました。私たちの要望にしたがってこまかい変更が出るかもしれませんが、おおすじでは先生の原案を諒承する形になりました。大村先生の選曲は、いつもいいなあと思っております。

この機会に勉強のつもりで、曲の感想を書いてみます。

第 102 回定期 : 2008 年 5 月

BWV102 《主の目は信仰を見たまう》 ( 未演 )

[ 橋本 | ト短調 | ATB ; fl , ob2 | 21 | 1726.8.25 ]

( [ 指揮予定 | 調性 | 編成 | 演奏時間 ( 分 ) | 作曲初演日 ] の順。編成では混声 4 部合唱と弦合奏・通奏低音の記入を省略してある。以下同じ ) 合唱は歌ってみたい曲です。バスとアルトのアリアは、音域が低く、聴いていて眠くなりそうです。

BWV 67 《留めよ心に イエスを》 ( 既演 1990 年 )

[ 橋本 | イ長調 | ATB ; hn , fl , oba | 14 | 1724.4.16 ]

1. 合唱は、リズムの変化が少ないので、メリスマを生かしたいのですが、アルトパートは音が低くて歌いにくそうです。4. コラールは 3/4 拍子の明るい曲で気持ちよく、曲全体が引き締まる感じがしました。6. バス・アリアと合唱は、歌ってみたい曲です。おもしろそう。

BWV169 《神にのみ わが心献げん》 ( 2005 年野尻湖神山教会 ) [ 大村 | 二長調 | 独唱 A ; oba , obc | 23 | 1726.10.20 ] オルガンとオーケストラで演奏してみたい曲です ( 神山教会ではピアノ伴奏 )。オルガンの名演奏を期待して、ア

ルトソロをたっぷり聴いていただきたい。

BWV182 《天つ君を迎えん》 ( 既演 1963, 66, 69 年 )

[ 大村 | ト長調 | ATB ; rec | 28 | 1714.3.25 ]

変化のある合唱が 3 曲もあり、器楽も美しくぜひ演奏したい曲です。明るく広々とした感じがしました。1. ソナタも美しく、2. 合唱は幸せに歌い出せます。アルト・アリアはとくに名曲だと思います。

( 長年モテット 5 番を歌いたいと願っていましたが、101 定演にモテット 1 番、3 番を歌いますので、ひきつづき 102 定演に入れるのはいかがでしょうか。上記 4 曲で、器楽のメロディーの美しさをしみじみ感じることができました。 )

第 103 回定期 : 2008 年 12 月

BWV122 《新たのみどり児 小さきわがイエスは》 ( 未演 )

[ 橋本 | ト短調 | SATB ; rec3 , ob2 , obc | 15 | 1724.12.31 ]

CD で聞いていないのですが、題名を見ただけで期待します。暗闇から光への期待です。バス・アリア 人よ 日ごと罪を重ねたるも 天使らの喜びとならん の歌詞は、ひっかかった部分です。

BWV214 《太鼓よ鳴れ ラッパよ響け》 ( 未演、世俗カンタータ ) [ 橋本 | 二長調 | SATB ; tp3 , tm , fl2 , ob2 , oba | 26 | 1733.12.8 ]

第 1 曲を聴いて、気分はクリスマスです。世俗曲であっても、このメロディーはクリスマスです。

BWV75 《貧しきものは食し》 ( 既演 1989 年 )

[ 大村 | ホ短調 | SATB ; ob2 , oba | 35 | 1723.5.30 ]

BWV191 《グローリア 高き天なる神に》 ( 未演 )

[ 大村 | 二長調 | ST ; tp3 , tm , fl2 , ob2 | 17 | 1743-46 ]

曲の構成に驚きました。有名な口短調ミサのメロディーをしっかりとクリスマスの曲として日本語で歌えるのがうれしいです。ピッチを決めて、バッハならではのハーモニーで歌いたい。103 定演は、クリスマスのすばらしい選曲だと思います。

( 104 定演と 105 定演の間にドイツ演奏旅行があると考えられます。十分に練習をして多くの方々に参加できるように、103, 104, 105 定演にドイツでの演奏曲を入れておきたいと思います。過去 4 回の演奏旅行で歌った名曲もふくめ、プログラムを検討したいものです。 )

第 104 回定期 : 2009 年 5 月

BWV11 《ほめよ 神のみ国》 ( 既演 1965, 78 年 )

[ 橋本 | 二長調 | SATB ; tp3 , tm , fl2 , ob2 | 26 | 1735.5.19 ]

1. 合唱、11. コラールは、それぞれが長い曲で、合唱が印象に残ります。4. アルト・アリアは誰もがなつかしく思うことでしょう。6. コラール、低い音で静かで全体が引き締まります。10. ソプラノ・アリア、器楽が美しい。

BWV71 《主はわが君》 ( 既演 1966, 81, 87 年、50 曲選 )

[ 橋本 | 八長調 | SATB ; tp3 , tm , rec2 , ob2 | 18 | 1708.2.4 ]

なつかしく聴きました。合唱が多く、聴衆のみなさんに楽しんでいただけるとと思います。6. 合唱は印象深いメロ

ディーです。5.アルト・アリアから6.合唱へ入るときの緊張感を感じます。

BWV52 《悪しきこの世よ われなれを頼まじ》( 予定 2007 年神山教会 )

[ 大村 | へ長調 | 独唱 S ; hn2 , ob3 | 15 | 1726.11.24 ]

シンフォニアが美しい。アリアの伴奏は、それだけでも器楽曲として成立可能な美しさです。こんなにも美しい前奏と伴奏がバッハの曲の美しさの由縁なのでしょう。

BWV76 《主の栄光を天は語り》( 既演 1975,89 年、50 曲選 ) [ 大村 | 八長調 | SATB ; tp , ob2 , oba , gb | 30 | 1723.6.6 ] 中心にシンフォニアがあり、各声部のアリアが 1 曲ずつあって、安定感のある曲だと思います。10.テノールは大変な曲だと思いますが、若いソリストで聴いてみたいです。

第 105 回定期：2009 年 12 月

BWV111 《より頼むものを主は導きたもう》( 未演 )

[ 橋本 | イ短調 | SATB ; ob2 | 17 | 1725.1.21 ]

合唱の前奏は、またしても美しい。何かを期待させてくれます。下 3 声の音域が狭いからなのでしょう、メロディーが聞き取りにくいです。メリハリをつけて歌えたらよいでしょう。アルト/テノール二重唱は、2 声のリズムがそろえば美しいでしょうね、長い曲で付点のリズムに日本語をうまくのせてほしい曲です。

BWV170 《うれしき心の平和》( 2004 年神山教会 )

[ 橋本 | 二長調 | 独唱 A ; fl , oba | 24 | 1726.7.28 ]

ドイツの CD を聞いても佐々木まり子先生の声が聞こえてくるようです。2 曲目のアリアでしょうか、ほとんど伴奏のない曲がありますが、佐々木先生の豊かな、自信に満ちた声で、もう一度聴いてみたいと思います。

BWV124 《イエス とともにあらん》( 既演 1978,98 年、50 曲選 ) [ 大村 | ホ長調 | SATB ; hn , oba | 14 | 1725.1.7 ]

最近演奏した曲だと思いますが、この 105 定演に、なんらかで必要な曲だったのでしょうか？

(「50 曲選」の中で定演に未使用のもの。その上、小編成のクリスマスシーズン用ということで入れました：大村)

BWV248-II 「クリスマス・オラトリオ」第 2 部 《この地に野宿して夜》( 既演 ) [ 大村 | ト長調 | ATB ; fl2 , oba2 , obc2 | 3 | 1734.12.26 ]

4 曲目にクリスマス・オラトリオの第 2 部だけが選曲されているわけで、6 部からなるオラトリオの各部を分けて演奏するのも可能で、おもしろいです(もともと分けて演奏された)。

第 2 部は、シンフォニアがあり、クリスマスになくはない歌詞も入っていて、名曲ぞろいです。クリスマス・オラトリオは、何十年も歌いこんだ宝です。この演奏は、いつも楽しそうに歌っていると友人からも言われます。

( 第 106,107 定期まで選曲済み。前号月報参照 )

## 受難曲と美術作品

白木 博也 ( 画家・後援会員 )

### 十字架降下

アリマタヤのヨセフは、総督ピラトに、キリストの遺骸引き取りを願い出、許される。パリサイ人ニコデモとともに、磔刑の釘をぬき、キリストの遺骸を降ろし、マリアらに引き渡す( マタイ 27 : 57,58、マルコ 15 : 42-46、ルカ 23 : 50-53、ヨハネ 19 : 38-40 )。

ドゥッチョ・ディ・ボンセーニャ ( 1255/60-1315/18 )

シエナ、ドゥオモ美術館



レンブラント ( 1606-1669 ) 銅版画 ロンドン、大英博物館



## 《マイ受難曲》との再会

柳元 宏史(団員:バス)

これは・・・すごい。思わず息をのんでしまった。目白での練習初参加の感想である。

わたしは幼いころ、エレクトーンをあてがわれたが、生来の不精の性格による練習嫌いが重なり、あつという間に投げ出した経験がある。そして高校に進み、楽器への憧れから吹奏楽部に。体に比例してコントラバスを担当してみたが、不幸にも先輩や先生と折り合いが合わず、さらに毎週土日の、まる1日近い練習に辟易して3ヶ月で嫌になった。ついには小学校から習っていた柔らの道(柔道)へ戻り、大学では体育会ボート部で4年間過ごし、あれから音楽とは、日曜に讃美歌を歌うくらいの間柄になってしまった。そのため、初見ができない、拍子をとることが容易でない・・・等々、挙げればきりが無いほど専門的な音楽には音痴なわたしに、唯一、神さまが備えてくださったのは、「歌うことが好き」ということと「詞を深いところで味わいたいということ」だった。

J.S.バッハの《マイ受難曲》との最初の出会いは、わたしが洗礼を受けて間もないころ、新約聖書の冒頭にある「マイによる福音書」のイエス・キリストの十字架の苦しみと、その前後の受難のシーンをテーマにした、その名も《マイ受難曲》(抜粋)のジャケットをCDショップで発見したときで、まさに運命の出会いだった。高校生のころ、イースター(復活祭)までの1週間、キリスト教で「レント」といわれる、キリストの受難に思いを馳せて過ごす期間に、このCDをよく聴いていた。

中でも好きな曲は65番のバス・アリア Mache dich, mein Herze, rein きよめよわが心 だった。意味は分からない。ただその旋律に迫りくるものを感じ、胸を打たれ何度もリピートして聞いていた。なぜだったのだろう・・・その答えが、この秋から練習に加わり、分かることが出来た。そうだったのかあ、これはバッハ自身の信仰告白だったのか。日本人のころにも深くしみこむ、この豊かな朗々とした旋律は、やはりいまも私の胸を打つ。そして日本語で歌い、味わえることで、さらにその詞の内容がストレートに脳に響いてくる。これだ。これだ。

旋律をそのままに、歌詞を日本語に翻訳する作業は並みのことでは出来ない、とよく聞く。その音楽性や、歌詞への深い洞察と、また訳語における詩的感覚が要求されるからだろう。その苦労にもかかわらず、簡単に批判を加える専門家の存在に、割に合わない作業のようにも思えるが、極端に言えば、素人にとってそんなことはどうでもよくて、「今、歌われている内容がわかるか、わからないか」そこだけが重要である。ある日本の教会の礼拝で、聖歌隊が外国語の歌詞で歌っているのを聞いて、なんだか違和感を覚えたことがある。なぜだったのだろう。それは歌っている意味が分からなかったからだ。

東京バッハ合唱団がこれまで大切になさってきた、日本語へのこだわりに敬意を表したい。そして、今、大好きな《マイ受難曲》でこの合唱団に参加することができ、そして東京バッハ合唱団の、創立45周年と第100回の定期を記念する節目に加わることが叶い、本当に嬉しく光栄である。

### 11月の新入団員の方

<ソプラノ>

越智琅子さん(新聞記事を見て)

鈴木久美さん(元団員、旧姓・長谷川)

<アルト>

林 登美子さん(団員の紹介)

<テノール>

小室勝実さん(団員の紹介)

<バス>

水谷素久さん(団員の紹介)

吉田栄次さん( )

<児童合唱>

関野菜子さん(小4)、小塚花李さん(小4)

大井千佳さん(小4)、平川絢景さん(小5)

後援会員・団員の皆さま

### 《マイ》公演ご招待について

先月号「月報」同封ご案内のとおり、明春3月の《マイ受難曲》公演は、多数のご来場が予想されますので、皆さまには、あらかじめ、ご来聴予定の有・無をお伺いしてから「招待券」をお送りしています。

勝手ながら、今回にかぎり、例年の「ご招待状」は割愛させていただきます。

招待券ご入用の方は、先月同封の「返信ハガキ」か、または直接お電話・ファックス等で、その旨、お早めにお申し付けください。お手数をおかけします。

### 「ラジオ深夜便：バッハ合唱団の45年」

大村恵美子・鈴木健次(NHKディレクター)対談

「ラジオ深夜便・ころの時代」(NHKラジオ第1放送・FM放送、2006年10月3日、4日)の録音CDをお作りいただきました。まだ若干残っていますので、事務局までお申し込みください。CD2枚組み・送料とも500円。

### 東京バッハ合唱団の年末年始

練習納め(桜新町)・・・12月16日(土)

クリスマス懇親会(6時30分より、ラ・ピアンタ)

練習納め(目白)・・・12月18日(月)

松山での集中練習(有志)・・・1月6日、7日(土・日)

練習はじめ(桜新町)・・・1月13日(土)

新年会(大村先生宅訪問、11時00分、千歳船橋駅集合)

昼食会(12時30分より、ピストロ・オランダブー)

練習はじめ(目白)・・・1月15日(月)